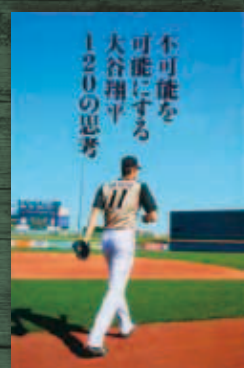


## 1年生のオススメ!



**不可能を可能にする**  
大谷翔平120の思考  
大谷翔平 著 ぴあ株式会社

僕は「いまのままじゃだめ」という言葉が印象に残っています。なぜなら常に常に上へ上へ向かっていく姿勢がすごいと思ったからです。ほかにも、自分の心に残る言葉があると思うのでぜひ読んでみてください。(保田中1年)



**吾輩も猫である**  
赤川次郎 等著 新潮社

この本にはたくさんの猫が出てきます。その猫たち一匹一匹の考え方や口調、性格が違います。その多数の猫の中から自分に似ている猫を見つけてその猫に着目して読んでみるとおもしろいです。例えば「バクテリア・ファージ・T4」という名前の猫もいます。猫それぞれに個性があり、おもしろいです。(保田中1年)



**いつも心の中に**  
小手鞠いり 著 金の星社

いつものように「いってきます。」「いってらっしゃい。」と父に手を振り、学校へと足を進めた。これが主人公みずぎの父との最後の会話だった。この本は、読者もみずぎと同じように成長できる一冊である。自分の経験したことのない困難に立ち向かう彼女の姿に勇気づけられ、『私の生き方』について考えることができ、私の心を大きく変化させてくれた。(箕島中1年)



**雨の降る日は学校に行かない**  
相沢沙呼 著 集英社文庫

中学生の視点での物語だから共感できるところがたくさんあり、「死にたい」と思っている全国の中学生に向けて書いてある本です。最終的には、読む前より読んだ後で前向きに生きようという勇気を得ることができます。(箕島中1年)

## 2年生のオススメ!



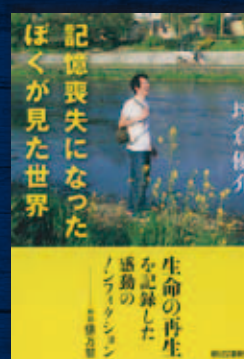
**白球**  
～野球からうまれた心のこぼれ～  
小川隆行・後藤豊 著 英和出版社

「怪我をしても、何でもできないわけじゃない」という言葉がお気に入りの言葉です。理由は、たとえ怪我をしていても、自分自身で何かできることを考えたら、何個でもすることはある。これからは、怪我したときにマイナスに思わずにプラス思考でできることを見つけたいです。(保田中2年)



**滅びの前の**  
シャングリラ  
尻尾良ゆう 著 中央公論新社

「もうすぐ隕石が地球に落ちて人類が滅びる」と突然発表された中、自分が嫌いな四人の主人公が「自分」をどう思っていたか、その気持ちにどんな変化があったかを注目してほしい。現実離れしている設定の中でも自分との共通点を探してしまう話です。(文成中2年)



**記憶喪失になったぼくが見た世界**  
坪倉優介 著 朝日文庫

この本を読んで、諦めないことが大切だと学びました。記憶喪失になったら、もう何もできない、生きていくことができない、かわいそうな子って思う人もたくさんいるでしょう。しかし、諦めなかつたら変わるんです。坪倉優介さんは、自分のしたい仕事につくことができました。この本は未来は変えることができると教えてくれました。(文成中2年)



**空へ**  
いとうみく 著 小峰書店

中学1年生の陽介が自分の痛みを抱えながらも1つ1つ向き合っていると力になろうとしたり、一步一步前に進んだりする姿がとてもいいなと思います。私の好きな言葉は、父が陽介に言った「投げ出さないことだよ。苦しむときほどさ。」です。私はこの言葉を読んだとき、とてもぐっときました。この本は家族の大切さがわかり、すごく勇気もらえる本です。(箕島中2年)



**人間失格**  
太宰治 著 集英社文庫

この作品は私みたいな厚い本が読めないという人にもとてもおすすめです。ですが、短いからと言ってうすい内容ではなく、とてもたくさんのことを考えさせられます。主人公の大庭葉蔵がだんだんと落ちてゆく様子や、人間のきたない部分がとても鮮明に描かれています。私は、この作品を読んで今までの価値観がすごく変わりました。「人間失格」は、私に人間というものを教えてくれた作品です。(箕島中2年)



**with you**  
濱野京子 著 くもん出版

この本は私たちと同じ年代ぐらいの子のお話でわかりやすい!「ヤングケアラー」を初めて聞いて大変なことだと知った。もし、自分がこの少女だったら、たぶんしんどくなるなど考えられるし、この立場になったらどうしようかをしていけばいいのかと考えることができる。人を大切にすることの意味について社会に目を向ける大切さについてわかる本!とてもおもしろい!(保田中2年)

## 3年生のオススメ!



**羊と鋼の森**  
宮下奈都 著 文芸春秋

主人公が自分の夢を見つけ、自分の夢に向かっていろいろな困難を乗り越えてくれるところが好きな場面です。1つの夢に向かって頑張る主人公から勇気と活力がもらえる本です。(初島中3年)



**傑作はまだ**  
瀬尾まいこ 著 ソニー・ミュージックエンタテインメント

この本の1番好きなところは、読んだ後に『親子』という概念をくつがえされることです。本を読み終えた後、このような感情になったのは初めてでした。結末が分かってしまったあとも読んでしまうような心温まる家族のストーリーがとても心に残ります。(文成中3年)



**僕は奇跡しか起こせない**  
田丸久深 著 宝島社

最初のご普通の恋人同士の話からはいるので読んで自分も楽しい気持ちなのですが、急に話が悲しくなり、最後の結末が早く読みたい!という気持ちになります。そのような気持ちになるのが1~2回じゃなくて何回も何回もあるのが本当に読んでいて時間を忘れるくらい楽しいです。感動もできるし、テンションをあげることもできる最高の一冊だと思います。(初島中3年)



**オレは、センセーなんかじゃない!**  
おかざきさとこ 著 Gakken

私がこの本をおすすめする理由は、仕事の大変さや楽しさがこのお話を通してわかってくるからです。その大変な中でもやりがいや、やってよかった!と思えるときもある、ということがわかりました。それにこのお話は保育士の話なので、その仕事にも興味が出てきます。この話を読んで仕事の楽しさなどを分かってほしいです。(箕島中3年)



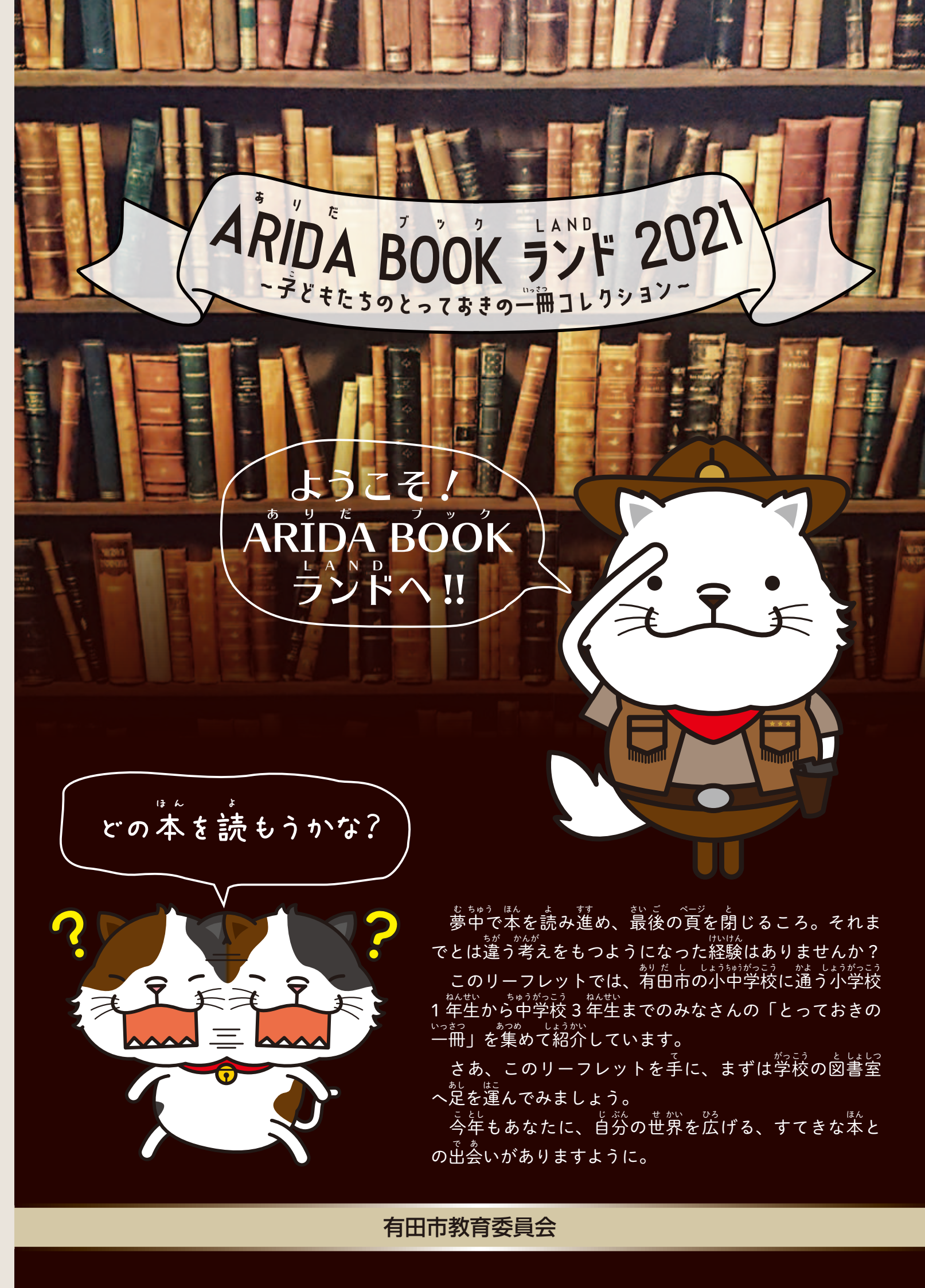
**ブラック校則**  
涌井学 著 小学館文庫

この本は校則が厳しすぎる学校に通う主人公をそんな学校に不満を持つ女の子が周りの人を巻き込み、学校にあらがう物語です。身近にあるようでないような世界観がとてもおもしろいです。まわりにある校則について考えるいい機会になると思うのでぜひ読んでみてください。(箕島中3年)



**MINECRAFT はじまりの島**  
マックス・ブルックス 著 北川由子 訳 竹書房

この物語は、主人公がマイクラの世界でいろんなピンチに陥りながらも、この世界でのルールを理解しながら生きぬいていく物語です。マイクラをしたことがある人なら、「次はあれをするのかな」とか「今あれに襲われているよ」と物語の1つ先を想像しながら読めるとと思います。マイクラをしたことがなくてもマイクラの世界を知ることができ、とてもおもしろいと思います。(文成中3年)



ARIDA BOOK LAND 2021  
～子どもたちのとっておきの一冊コレクション～

ようこそ!  
ARIDA BOOK LAND  
ランドへ!!



どの本を読もうかな?

夢中で本を読み進め、最後の頁を閉じるころ。それまでとは違う考えをもつようになった経験はありませんか? このリーフレットでは、有田市の小中学校に通う小学校1年生から中学校3年生までのみなさんの「とっておきの一冊」を集めて紹介しています。さあ、このリーフレットを手に、まずは学校の図書室へ足を運んでみましょう。今年もあなたに、自分の世界を広げる、すてきな本との出会いがありますように。

**えほん 絵本**

**そのの100かいでてのいえ**  
いわいとしお 作 偕成社  
ぼくがーばんすきなへやはにじさんのへやです。ぼくもにじさんといっしょにトランポリンにのりたいな。(保田小1年)

**うんこしりとり**  
tupera tupera 作 白泉社  
こっそりうんこのところがおもしろいです。くさの中であつてうんこをしているところがおもしろいです。ずっとしりとりがつづいてすごいと思いました。(初島小2年)

**どっちがへん？**  
いわいとしお 作 紀伊國屋書店  
このほんでは、どっちくんとへんくんがでています。へんくんは、ふつうの絵のはんたいをかきます。どっちくんはふつうです。その中でも、おもしろかったところは、へんくんがかいた絵でお母さんのネックレスが耳にあるところです。(宮原小2年)

**ちからたろう**  
はじめての世界名作えほん  
なかわきはつえ 作 ポプラ社  
ぼくものが、村の人たちをはき出すところがおもしろい。どうしてかという、はなからぼん、と出てくるからです。(港小2年)

**おいも！**  
石津ちひろ 作 小峰書店  
ぼくはこのつるひっぱるぞー。えーんやこーらよーいしょといながら、いもをひっぱるところがおもしろい。(保田小1年)

**へっこきよめさん**  
おざわとしお・からさわかおり 作 くもん出版  
おならをだすところがおもしろい。あと、かおがおもしろい。さらにうごきがおもしろい。あと、よめさんがおもしろい。(宮原小1年)

**おばけのてんぷら**  
せなけいこ 作 ポプラ社  
めがねをてんぷらのころもにいらしたのがおもしろい。さいごにめがねを食べたのがおもしろい。(田鶴小2年)

**しぜん 自然 がく 科学**

**今泉先生のゆかいな動物日記**  
今泉忠明 著 KADOKAWA/ 角川つばさ文庫  
この本の好きな場面は、動物と今泉先生がふれあう場面です。理由は今泉先生が動物に向かっているとき、愛がこもっているのがよく分かるからです。ぼくは動物が好きなので、動物のことがよく分かりました。ぼくも今泉先生のような心の広い人になりたいです。(宮原小4年)

**ごろりんたまねぎ**  
いわさゆうこ 作 童心社  
ぼくの家にははたけがあるのでやさいの絵本をおすすめします。ほかにもおいしいそうなやさいのしゅるいを知ることができます。(箕島小2年)

**糸で生きる虫たち**  
糸で生きる虫たち  
松山史郎・小川宏 著 大日本図書  
虫たちは生き続けるために、さまざまな方法をつけています。その一つの糸のつない方を読んで、虫は糸をつかわないと生きていけないんだなと思いました。(糸我小4年)

**時間の大研究**  
池内了 著 PHP 研究所  
ぼくはなせうのう年があるのかずうつとぎ間だったけどこの本を読むとき問が晴れ、心地が良くなりました。この本を気に入った理由は知らないことを知ることができるし、何より勉強になったからです。他にも、火星などがどのようにして太陽の周りを一周しているのかがわかりました。(宮原小4年)

**みやざわけんじ 宮沢賢治コーナー**

**注文の多い料理店**  
宮沢賢治 作 偕成社  
好きなところは、注文をいくつもいくつもされながら前へと進んでいくところです。2人の紳士が吸い込まれるように前へ前へと進んでいきます。そして、注文がおかしいことに気づいていく…。最後はどんなふうになるかハラハラします。(初島小6年)

**なめとこ山の熊**  
宮沢賢治 作 偕成社  
わたしは「なめとこ山の熊」を読んで、命の重さは同じということがいいなと思いました。なぜなら、このお話で熊(動物)だからといって殺してはいけないということがよく伝わってきたからです。最後に殺された方の気持ちも分かるので、いじめて一つしかない命を落とすということも少しは減ると思いました。(箕島小6年)

**よ 読み物**

**① ちやうがくねんへん 中学年編**

**里見八犬伝**  
曲亭馬琴 作 横山充男 文 Gakken  
さいごにみんながあつまって、「おれたちは、たましいの兄弟として、心を一つにしていかなければな。」と言っているところがすきです。あたたかい気持ちになるからです。(港小3年)

**電車で行こう！北斗七星にねがいを**  
豊田巧 作 集英社みらい文庫  
電車に乗りおくれともあきらめずに鉄道のちしきを使って追いついたのがすごいと思いました。鉄道のことで困っている人を助けたいという気持ちがすばらしいと思いました。助けたいというその気持ちが伝わって、わたしも鉄道がすきになりました。(箕島小3年)

**よ 読み物**

**② ちやうがくねんへん 高学年編**

**スイマー**  
高田由紀子 著 ポプラ社  
この本は私に、みんなでも協力することで難しいことも達成できるということを教えてくれた本でした。そしてこの本には「1人で勝つのはすごい。でもみんなで勝つのは強いぞ。」という言葉が出てきます。この言葉は本を全部読み終わるとどうの意味かが分かります。だからみなさんにも、協力することでむずかしいことも達成できるということを知ってもらいたいです。(田鶴小6年)

**54字の物語 怪**  
氏田雄介 著 PHP 研究所  
この本のいいところは、物語と解説の文が短いところです。54字の物語で内容がよく分かります。そしてもう一つのいいところは、意味が分からなくても解説を読むとほんとと思うところです。だから長い文が苦手な人におすすめです。(糸我小5年)

**世にも奇妙な商品カタログ**  
地図十行路 著 KADOKAWA/ 角川つばさ文庫  
主人公ののめが自分の願いを叶えるために奇妙な商品を買ります。その商品が「ガツカリ」「思ったのとちがう」「こんははずじゃなかった」という結果がとても予想外でおもしろいです。(保田小6年)

**三毛猫ホームズの事件ノート 三毛猫ホームズの幽霊退治**  
赤川次郎 著 汐文社  
何か事件のにおいがしたら、三毛猫ホームズは「ニャー」といつもの鳴き声より少し強めに鳴きます。ホームズは、いつも事件の手助けをしてしてくれすごく優しい猫です。ホームズがかわいくて見とれてしまいます。事件が解決するとすっきりした気持ちになります。(宮原小5年)

**わたしも水着をきてみたい**  
オーサ・ストルク 作 きただいえりこ 訳 さ・え・ら書房  
私は、水に入ったことのないファドマが、初めて水につかるところが好きです。なぜなら、そこの場を読むと勇気が出てくるからです。私もいろいろなことにちやうせんしていきたいです。(初島小4年)

**イケカジなぼくら①**  
川崎美羽 著 KADOKAWA/ 角川つばさ文庫  
私がこの本を好きな理由は主人公たちが家事をがんばるところがおもしろいからです。1番好きな場面はコンテストに出て「さくらぼくん」という人が来るところです。あおいという主人公がドジで天然なのがおもしろいです。(保田小4年)

**54字の物語 怪**  
氏田雄介 著 PHP 研究所  
この本のいいところは、物語と解説の文が短いところです。54字の物語で内容がよく分かります。そしてもう一つのいいところは、意味が分からなくても解説を読むとほんとと思うところです。だから長い文が苦手な人におすすめです。(糸我小5年)

**世にも奇妙な商品カタログ**  
地図十行路 著 KADOKAWA/ 角川つばさ文庫  
主人公ののめが自分の願いを叶えるために奇妙な商品を買ります。その商品が「ガツカリ」「思ったのとちがう」「こんははずじゃなかった」という結果がとても予想外でおもしろいです。(保田小6年)

**三毛猫ホームズの事件ノート 三毛猫ホームズの幽霊退治**  
赤川次郎 著 汐文社  
何か事件のにおいがしたら、三毛猫ホームズは「ニャー」といつもの鳴き声より少し強めに鳴きます。ホームズは、いつも事件の手助けをしてしてくれすごく優しい猫です。ホームズがかわいくて見とれてしまいます。事件が解決するとすっきりした気持ちになります。(宮原小5年)

**探偵チームKZ事件ノート 消えた自転車は知っている**  
藤本ひとみ 作 住滝良 文 講談社青い鳥文庫  
最初の自己紹介の言い方がすごくおもしろかったです。人をそそのかす名人、若武和臣にだまされる立花彩(主人公)がすごくかわいかったです。(田鶴小4年)

**科学探偵VS.暴走するAI(前編)**  
佐東みどり 他 著 朝日新聞出版  
この科学探偵という本は、ナゾをとくシリーズです。最初はあまりヒントや手がかりはないけれど、とちゅうからだんだん分かってきます。次はどのナゾがとけるのかな？とどきどきしてすごくおもしろい本なので、ぜひみなさんも読んでみてください。(箕島小4年)

**小説 弱虫ペダル**  
渡辺航 著 岩崎書店  
1巻では、初めて自転車競技部に入ってからどんどん練習して、力を合わせて試合にいどむところがいいと思いました。自転車からこけてもチームの列へたどり着き、自分の役目をはたしたところに私は「グッ！」となりました。(宮原小6年)

**「死ぬんじゃねーぞ！！」**  
中川翔子 著 文藝春秋  
この本は「いじめ」や「死にたい」という人について書かれています。私が特に印象に残った言葉はやっぱり「死ぬんじゃねーぞ！！」です。死んだ人は戻ってこない、幸せを見つけるために生きよう。この本は「死」だけでなく「生きる意味」を教えてください。(港小6年)

**岡本太郎 芸術という生き方**  
平野暁臣 著 あかね書房  
この本の好きな言葉は「『本職』って言うのなら、「人間」ですね。」という岡本太郎さんの名言です。なぜなら、岡本太郎さんは決して絵を売ろうとせずに、お金にえなかったことから、本職は「芸術家」ではなく、「人間」ということがよく伝わったからです。(糸我小6年)